

成果の説明書

(氏名) 八木橋 慶一	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究活動</p> <p>関西学院大学大学院人間福祉研究科に提出した博士論文「イギリスにおける社会的企業の形成史に関する研究—「ボランティア・アクション」を中心として—」が審査に合格、博士（人間福祉）の学位を取得した。</p> <p>また、高崎経済大学地域科学研究所の研究プロジェクト「空家特別措置法施行後の空家対策に関する総合的研究」での研究成果を学会で報告した（7月21日）。日本地域政策学会第17回全国研究大会（於岡山大学）であり、報告のタイトルは、「NPOと自治体の空き家対策事業—高崎市「地域サロン改修助成金」を例として—」である。同プロジェクト全体の成果は、『空き家問題の背景と対策：未利用不動産の有効活用』として日本経済評論社から出版された（上記の学会報告をもとに第8章の執筆を担当）。</p> <p>② 教育活動</p> <p>平成30年度は、前年度に引き続き「NPO論」（前期）、「社会起業論」（後期）、「コミュニティビジネス論」（後期）の3つの講義を担当した。講義では、理論や著名な事例を紹介するだけでなく、実務家をゲストスピーカーとして招聘し、それぞれの団体における具体的な活動を紹介してもらう機会を設けた。NPO論と社会起業論では各1回、コミュニティビジネス論では2回、国内で活動するNPO法人や社会的企業の代表者などに実務経験に基づく講演を行ってもらった。講演後は学生にレスポンスシートの提出を求めた。それらの内容から、学生が非営利組織やソーシャルビジネスの実態を深く理解できたことを確認した。</p> <p>またゼミ形式の科目として「初年次ゼミ」（前期）、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」を担当した。初年次ゼミでは、1年生に統一テキストを用いて大学における学習の作法、ディベート、口頭発表の技術などについて指導を行った。「演習Ⅰ」（3年ゼミ）では、次年度での卒業論文の作成に向けた準備として、専門文献の輪読、グループ別の調査を行ってもらい、論文執筆に必要な知識や情報を学生が習得したことを確認した。「演習Ⅱ」（4年ゼミ）では、卒業論文の指導を行った。全員一定水準以上の論文を提出することができた。</p> <p>そのほかには、「演習Ⅰ」への準備として、ゼミに決定した2年生を対象とするプレゼミを月2回の頻度で開催した。基本文献の輪読を行うことにより、学生は基礎知識を習得できた。</p> <p>③ 学内業務・社会活動など</p> <p>学内業務では、全学組織の情報基盤センターの運営委員として、本学の情報関連業務に携わった。また、学部の基礎教育委員会副委員長として、平成30年度より導入した統一シラバス・テキストに基づく「初年次ゼミ」の運用、次年度以降の初年次教育の運用に関する制度設計に委員長とともに携わった。そのほか、高崎経済大学地域科学研究所の研究委員長として、研究所の研究関連業務に携わった。研究所主催の「あすなろ市民ゼミ」にも出講し、「ソーシャルビジネスを考える」のタイトルでゼミナールを行った（12月18日）。高校への出前授業も一件担当し、福島県立喜多方高校に出講した（10月18日）。講義名は、「まちづくりとソーシャルビジネス～地域貢献の新しいかたち～」である。</p>	

社会活動では、日本政策金融公庫高崎支店が中心となり、高崎商工会議所などと連携して発足させた「高崎ソーシャルビジネスサポートネットワーク」の顧問を引き続き務めた。学会活動では、日本政治法律学会の設立に伴い、同学会の理事に就任した。また日本地域政策学会の編集委員を務めた。

2 その他の事項

特になし。

3 次年度以降の計画・抱負

- ① 科研調査の成果をまとめ、公表する。
- ② 博士論文の出版に向けた研究を行う。
- ③ 上記以外に継続して行っている研究成果をまとめ、発表する。
- ④ 卒業論文作成のために、演習Ⅰと演習Ⅱのそれぞれできめ細かい指導を行いたい。